

学外活動記 - ロンドン旅行

学外活動奨学金により 10 月 28 日から 11 月 7 日にかけて 11 日間（イギリス滞在は 9 日間）のイギリス渡航を叶えさせていただきました。渡航の目的はロンドンにおける中産階級の邸宅見学です。イギリスには多くの邸宅が当時の家具がそのままに保存されていたり、美術館として使用されています。私は 8 つの邸宅を見学しました。中でも、一番印象的だったのは、Sir. John Soane's House です。有名な建築家の邸宅なのですが、中には溢れるほどの数の美術品と迷子になってしまいそうなほど入り組んだ間取りのためか、邸宅というよりも美術館という印象が強く、圧巻でした。（図 1、2）

邸宅のほかにも様々な観光地をめぐるしました。シャーロック・ホームズ博物館に切り裂きジャック博物館、テート・ブリテン、ナショナルギャラリー、タワー・ブリッジ、ロンドン塔などロンドンの観光地をひたすら歩きめぐりました。個人的にはロンドン塔が印象的で、ハロウィンだったのでロンドン塔には仮装した子どもたちやゴーストに扮したキャストさんがいました。（図 3）

また、イギリスはご飯がまずいで有名ですが、そんなことはありません。とくにマーケットのご飯は美味しくホットドッグは抜群に美味しかったです。ただフィッシュ&チップスは高い（4000 円くらい）ですが、期待以上のおいしさは得られないのであまりおすすめはしません。イギリス料理だとスコーンやソーセージロールなどのペストリーをおすすめします。（図 4）

今回のイギリス渡航では研究への知識を深めると共に、海外の文化や、逆に日本の文化の学びを得ることができたり、自分の中にある海外へのハードルを下げることができました。このような経験をするにあたり、資金面で大きな援助となった学外活動奨学金の制度を整えてくださっている中央大学文学部には感謝しかありません。ありがとうございました。



↑ 図1 Sir. John Soane's House



↑ 図2 Sir. John Soane's House(書斎)



← 図3 ロンドン塔のゴーストに扮したキャストさん



←図 4 スコーン



↑タワー・ブリッジ



↑ケンウッド・ハウス
今回の訪問の一番のお気に入り